

公共施設確保に奔走 新スポ連千葉、新年度の日程固まる プロ参入で「市民の場」減少に危機感

新日本スポーツ連盟千葉県連盟は、野球やテニス、卓球など10種目の協議会を擁していますが、2026年度の大会開催に向けた公共施設の利用調整を概ね完了しました。

2月に行われた県・市の施設抽選の結果、千葉ポートアリーナ2日間やテニスコート53日間などの会場を確保。今後、これらを基に年間日程を確定させ、各協議会から会員への周知を進めることとしています。

スポーツ大会の運営において、会場確保は生命線です。しかし、県や市の公共施設利用には、自治体行事や特定の組織（スポーツ協会、高野連等）が優先されるシステムがあり、県連盟のような一般団体は、残った枠を抽選で奪い合う厳しい状況が続いています。実績のない団体や個人利用はさらに後回しとなるのが実情です。

本年度の抽選の結果、体育館施設ではポートアリーナのほか、花島公園体育館（11日間）や、印西市、四街道市の施設などを確保し、野球場やサッカー場も例年並みの枠を維持しました。

一方で、深刻な課題も浮き彫りとなっています。近年、プロスポーツチームが公立アリーナを「ホームアリーナ」として優先利用するケースが増え、一般団体の活動枠が圧迫されている状況があります。私たちは「市民・県民が主体となって利用できる施設の整備と、

公平な運営が切実に望まれている」と訴えており、公共施設のあり方が改めて問われていると考えています。

施設名	利用施設	利用可能日
ポートアリーナ	メインアリーナ	2026/7/20 (月・祝)
		2026/8/16 (日)
Yohasu アリーナ	アリーナ	2027/3/16 (月)
花島公園体育館	アリーナ	2026/4/11 (土)
		2026/4/29 (水・祝)
		2026/7/20 (月・祝)
		2026/8/11 (火・祝)
		2026/9/22 (火・祝)
		2026/9/23 (水・祝)
		2026/11/3 (火・祝)
		2026/12/2 (火)
		2027/1/11 (月・祝)
		2027/2/11 (火・祝)
宮野木スポーツ施設 体育館	アリーナ	2027/2/23 (火・祝)
		2026/6/7 (土)
松山下公園体育館 (印西市)	メインアリーナ (3面)	2026/10/4 (日)
		2026/5/3 (日・祝)
四街道総合公園体育館	サブアリーナ	2027/2/23 (火・祝)
		2026/6/27 (土)

確保できたアリーナは、ミックスバレーボール、バレーボール、卓球などの協議会が協議しそれぞれの利用日を確定し、会員の皆さんにお知らせする予定です。

テニス協議会の年間予定は以下から参照下さい。

銀世界の志賀高原に響く歓声「2026年千葉県スキー祭典」開催 絶好の快晴下、少人数レッスンと交流で深まった絆

新日本スポーツ連盟千葉県連盟は2月20日から23日の3泊4日、長野県・志賀高原一ノ瀬スキー場にて「2026年千葉県スキー祭典」を開催しました。参加者はバス1台、自家用車2台に分乗した総勢48名。小学1年生からベテランまで、世代を超えたメンバーが白銀の舞台で交流を深めました。



■「魔法のよう」と驚きの声

質の高い少人数レッスン

本祭典の最大の特徴は、きめ細やかな少人数レッスンにあります。今年は東京から招いたベテラン指導員3名と、千葉の指導員6名がタッグを組み、レベルに応じた密度の高い指導を展開しました。

参加者からは「憧れの一ノ瀬の急斜面を滑り降りることができた」と感動の声が続出。周囲から「魔法をかけたのか」と



驚かれるほどの短期間での上達ぶりに、各班のレッスンへの評価は極めて高いものとなっていました。

また、子ども班の2名も2日目にはリフトに乗り、山頂からの迂回路を軽快に滑走。一方

で「ゲレンデ巡り班」は、休憩も忘れて滑走に没頭するあまり、メンバーから「少しは休ませて」と悲鳴(?)が上がるほどの熱中ぶりを見せていました。



■「ピーカン」の3日間 交流会も完全復活

天候にも恵まれた。3日間を通して風もなく、夕方まで雲一つない「ピーカン」のスキー日和。役員からは「こんな志賀高原は見たことがない」と感嘆の声が漏れるほどの最高のコンディションとなりました。



夜の交流も祭典の醍醐味です。宿泊先の「ホテル山楽」大広間では、趣向を凝らしたゲームやクイズ、喜来指導員手作り小物のプレゼントなどで大いに盛り上がりました。

最後には、同時に開催されていた「平和スキーまつり」の歌う会とも合流。都府県の枠を越えたスポーツ仲間の連帯が、夜の志賀高原に響き渡りました。

■技術向上への熱意と、アットホームな素顔

技術への探求心も忘れません。初日の夕方には、本田指導員兼カメラマンによるビデオ撮影を実施。夜の映像分析会では、一人ひとりの滑りに対して丁寧な解説が行われ、参加者は真剣な表情で画面に見入っていました。

一方で、微笑ましい「事件」も。全体交流会用に用意していたビールが、前夜の班別交流会で(?)飲み尽くされるというハプニングが発生。急遽ホテルから瓶ビールを購入することとなりましたが、それもまた、祭典ならではの賑やかさを物語るエピソードでしょうか。

【参加者感想】

コーチがやさしくすべり方を教えてくれました。速くすべれるようになりました。リフトに乗って、コーチがいっしょにすべってくれました。思い切りすべることができてうれしかったです。また来年も行きたいです！ (そうた君)

■初参加ファミリーとも固い握手



リピーターが多い本祭典ですが、初参加者への門戸も広く開かれています。当初は緊張した面持ちだった初参加のファミ

リリーも、最終日のバスを下りる頃には、役員と笑顔で握手を交わすほどに打ち解けていました。

「役員之苦労はあるが、また頑張ろうと思えた。」見玉指導員(役員)の言葉には、スポーツを通じて人と人が繋がる喜びと、次回への確かな手応えが滲んでいました。

スキー祭典では、コーチが分かりやすく指導してくれたので、いつもと違ってスムーズに滑る事が出来ました。

レッスンをしたり、長い距離をスピードでトレインしたりとメリハリをつけてくれたので楽しかったし、技能も向上でき大満足でした。

またレッスン以外でも多くの方と親しくなり、再会も楽しみになりました。(池畑さん)



(記事は見玉指導員の原稿を元に編集者がアレンジしています)



常任理事会報告

2月19日（木）穴川コミュニティーセンターにおいて、53期第11回となる常任理事会を開催いたしました。

【活動経過】

- 1/21 リレーマラソン打合せ会議
 - 1/22 野球協議会関東ブロック会議
 - 1/28 ウォーキング例会（成田）
 - 2/7 全国連盟評議員会
千葉県施設調整会議
 - 2/8 冬季卓球大会
 - 2/14 千葉市施設調整会議
船橋ミックスダブルス卓球大会
- テニス協議会大会（1/17、24、2/14）

【協議関係】

- 1 対市、対県要望書について
常任理事会開催時点で動きは無し
- 2 施設利用調整会議について
千葉市の体育館の調整会議の結果が出たので、

バレーボール・ミックスバレーボール・卓球の3種目で確保できた日程を再配分することにする。

3 全国連盟評議員会について

施設利用調整会議と日程が重複しているため、日野常任理事が田久保副理事長の代理として出席（zoom）した。

特段の意見は無し

4 全国連盟総会代議員（2名）の選出について

卓球協議会の石原さん（土日）、田久保副理事長（土）、竹村常任理事（日）の3名を代議員として選出した。

5 全国連盟役員の推薦について

園川理事長を全国連盟理事として推薦、日野常任理事を評議員として推薦する。

6 SportsNetちば3月号4月号の掲載記事について検討しました

7 四街道総合公園リレーマラソンについて、示された日程（10月10日の午後）だけでは開催が困難との返事を四街道市地域振興財団に送ることにしました。

スポーツアラルカルト

メダルだけが注目されて良い？ 競技者の底上げは？スポーツを 楽しめる環境はあるのか？

2026年2月6日から2月22日まで、第25回冬季オリンピック競技大会がイタリア・ミラノ・コルティナダンペッツォで開催されました。今は冬季パラリンピック競技大会が開催されています。

連日メダルの数に注目した報道に、結果だけを求める今の日本ウィンタースポーツ界と取り巻く世相が反映しているのではないのでしょうか。

私もスキーのGS（ジャイアントスラローム）やSL（スラローム）の競技に出ています。こうした種目の日本人選手の活躍には注目したいと思います。しかし、組織委員会や日本スキー連盟はメダルの取れそうな選手には金を出しますが、取れそうにない種目にはなかなかお金を出そうとはしません。

スキーの世界カップを始めとした国際大会はほとんど海外で行われます。そうした海外の大会に出場することによって技術や試合勘といったようなものも向上するというのにそこには力を入

れることなく、結果だけを求めている姿は少しばかり悲しくもあります。

陽の当たらない選手たちにも注目してくれる報道を期待したいものです。

そういった意味では、パラリンピックとオリンピックの報道姿勢についても同じようなことがいえるのではないのでしょうか。

これでもかというように毎日毎日報道放送されていたオリンピックとパラリンピックの報道の差に、これで良いのだろうかと言う気持ちになります。

一方で、私たちの身近なスポーツ施設はプロと呼ばれる見せるスポーツの会場として押さえられ、身近とは呼べない状況も生まれています。千葉県連盟も主催する各種大会の会場が、プロチームのホームグラウンドやホームアリーナに指定されて、なかなか確保できない状況があります。

見せる・或いは見るスポーツを否定するつもりはありませんがもう少し、実際に身体を動かすスポーツにも目を向けてもらいたいものです。

スポーツ庁の調べでも、スポーツを楽しんでいすら人口は散歩などのスポーツ？と頭をひねるものも含めて52%（2024年調べ）とか。

これを多く感じるかどうか、、、

県連盟事務局長 佐々木 睦昭

野村 優美さん

県連盟理事・バレーボール協議会

ジェンダーフリーが叫ばれている昨今、新スポ連の役員にも女性理事の活躍が期待されているところです。今回紹介するバレーボール協議会出身の理事・野村優美さんもその一人です。昨年第1子が誕生！子育て中真っ最中の中でインタビューに応じていただきました。はてさてどんな話が飛び出すか・・・

ご本人の出身は生まれも育ちも生粋の千葉っ子！「現在福祉関係の仕事をしてしていますが、それまでは事務職や接客業に従事していました」とのこと。どうりで海千山千の選手相手に丁々発止の対応は流石！



新スポ連千葉理事に就任されたのが一昨年（2024年）の定期大会からですが、高齢者が多くを占める現役員体制の中でひときわ若さが目立つ存在です。

新スポ連とのかかわりは野村さんより一足早く理事になっていただいた吉川 明理事（人物探訪 2023年7月号紹介済み）から4～5年前に紹介されたのが始まりとか？ 吉川さんの口説き文句はどういう内容だったか残念ながら聞きそびれました。

さて、現在子育て真っ最中の中でなかなかバ

レーボールを楽しむ機会はないと思いますがバレーボールの魅力は？との問いに「選手も見る人もプレーや応援で一体感を得られるスポーツだと思います。中学から始めて高校を卒業した時に一旦離れましたが、20代後半でまた始めるきっかけがあり今はたまに大会に出るという感じです。

小さい頃から、体を動かすのが好きだったのでスポーツは見るのもやるのも大好きです。」と力強い言葉が返ってきました。

スポーツと子育ての両立は？との問いには「まだ子供が小さいので両立が出来ないのが大変です。たまに、バレーがしたい衝動にかられるのに出来ない事ですかね。今は育児がひと段落したら、またお願いします！」お子さんと一緒に早くコートに戻ってくる日が楽しみです。

会員の皆さんへのメッセージ「競技は勝ち負けはもちろん大事ですが、人生そのものに通じていて大切な価値がきっとあります。スポーツは一人では完結しません。仲間を尊重し支え合う事でより大きな成果を生み出せると思います。競技の向上だけでなく、礼節や協調性といった人としての成長を大切に、スポーツを通じて地域社会に貢献し続けられる存在であって欲しいと願っています。」と、一児の母の慈愛に満ちた回答を頂きました。

最後にバレーボール以外の趣味は？との問いに、なんとミラノ・コルティナ冬季五輪で日本人選手が大活躍したスノーボードを挙げていただきました。「今は全く出来ていませんがスノーボードも20代前半からやって



いました。落ち着いたら子供も連れて行きたいです。」その雄姿は添付の写真をご覧あれ！

(文責 園川)

SPORTS CALENDAR

3月

3月7日(土) テニス春季大会(年齢別男女) 天台A/B
3月12日(木) 卓球3ダブルスお花大会 YohaSアリーナ
3月13日(金)～15日(日) スキー協4クラブ合同スキー
3月15日(日) 野球協リーグ戦開幕(稲毛海兵)
3月21日(土) バレーボールALLKANTO大会
3月25日(水) ウォーキング協議会例会
3月29日(日) 千葉県スポーツ祭典春季空手大会
3月30日(月)～31日(火) スキー協指導員研修
3月14日(土)～15日(日) 全国連盟総会
3月11日(水) 四役会議
3月19日(木) 常任理事会
3月21日(土) 会計監査

4月

4月11日(土) バレーボール関東ブロック大会 駒沢五輪体育館
4月25日(土) テニスのびな大会(男子) 稲毛海兵
4月26日(日) テニスのびな大会(女子) 高浜
4月29日(水・祝) スリーダブルス卓球大会 花島体育館
4月8日(水) 四役会議
4月16日(木) 常任理事会
4月18日(土) 県連盟定期総会(スポーツ科学センター)
4月19日(日) 県卓球協議会定期総会

15年目を迎えて今一度考えよう ～～～福島第1原発事故～～～

2011年3月11日に発生した東京電力福島第1原発事故から15年目となる2026年時点でも、福島県内外で避難生活を続けている人は2万7千人以上(自主避難などを含めると実数はそれ以上ともいわれています) 帰還困難地域の解除や生活再建が進む一方、高齢化、コミュニケーションの分断、経済的格差、孤独・孤立、放射能への健康不安が長期化しているといえます。

帰宅困難地域内には多くの高校が存在していました。原発事故は五つの県立高校(浪江高、津島高、富岡高、双葉高、双葉翔陽高)が「休校」=事実上の「廃校」に追い込まれました。そのうちの一つ「双葉高校」は高校野球全国大会に3回も出場した経験のある伝統ある高校です。現状は枯草と巨木が茂り、球児たちが汗を流したグラウンドは当時の面影は全くない状況です。

同校が福島県代表として初めて甲子園の土を踏んだのは1973年(昭和48年)創設50周年の年。福島第2原発1号機の設置計画が進行中。同校新聞部は校内新聞で「原子力発電の安全

性を問う」という特集を組みました。すでにこの時点で福島第1原発1号機が1971年(昭和46年)に運転を開始していました。特集では地元住民は安全性へ疑問を抱き「世界の学者・専門家においてさえも絶対的安全性は十分に確立されていないのが現状」と指摘。

しかしながら「炉心溶融等の過酷事故は起こりえない」という絶対的な安全性=原発神話を強調し、電力会社は安全対策を講じることもなく、あの日「あってはならない事故」が発生しました。特集記事の指摘が見事に立証される結果となりました。原発神話がはびこる中で政府・東電のいう「フクシマ復興」は見せかけにすぎず、球児の夢までもうばいさるという結果につながりました。先の総選挙で圧倒的多数を得た高市政権は原発再稼働・新設に前のめりの姿勢を強くしています。事故から15年目の春、今一度原発について振り返ることが求められているのではないのでしょうか？

*参考：しんぶん赤旗「潮流」
2026年2月22日付



理事長の独り言